

言語理論はフィールド言語学に資するのか？-北米諸語の事例から-

内原洋人 (hirotouchihara81@gmail.com)

東京外国語大学

フィールドで得られた少数言語のデータがいかに理論言語学に貢献できるかということが議論されることは多いが（例えば、Blevins 2007; Evans & Levinson 2009; Davis et al. 2014）、逆方向の議論、即ち言語理論がフィールド言語学にどれほど貢献できるかということに関しては、殆ど議論されることがない。すなわち、理論言語学が言語記述やドキュメンテーションや言語再活性化に役立つのかとの議論である。記述的な文法書を執筆したり辞書を編纂したりする際、どこまで理論的な分析を含めるべきであろうか。また、理論言語学を完全に無視した記述的研究とは可能なのであろうか。

本発表では、発表者の専門である北米諸語の中からメキシコ・ゲレロ州で話される先住民語であるトラパネク語を例にとり、こうした問題について考察を行う。トラパネク語ウエウエテペク方言の動作主動詞は、一部のアスペクト・モードにおいては声調のみによって7つの人称を区別する（Uchihara & Tiburcio Cano 2020）。こうした声調活用は先行研究では形態的な交替として扱われてきたが（Suárez 1983）、Uchihara & Tiburcio Cano（2020）は、(i)自律分節音韻論（Goldsmith 1976）的な表記を用いた基底形の設定、(ii)自律分節音韻論を用いた声調規則の定式化、及び(iii)最適性理論（Prince & Smolensky 2004[1993]）を用いた分析を通し、こうした声調活用は形態素の結合と生産的な声調プロセスの適用で説明可能であると主張した。

本発表では、こうした理論的な分析のそれぞれについて、それが記述文法執筆や辞書編纂などと言った記述言語学的な研究の上で、或いはドキュメンテーションや言語教育の場でどれだけ有益となりうるかを吟味し、理論的な枠組みなしでも同様の効果が得られるのかを考察する。

参考文献

- Blevins, Juliette. 2007. Endangered Sound Patterns: Three perspectives on theory and description. *Language Documentation & Conservation* 1.1: 00-00.
- Davis, Henry, Carrie Gillon and Lisa Matthewson. 2014. How to investigate linguistic diversity: Lessons from the Pacific Northwest. *Language* 90.4:180-226.
- Evans, Nicholas and Stephen Levinson. 2009. The Myth of Language Universals: Language diversity and its importance for cognitive science. *Behavioral and Brain Sciences*. Cambridge: CUP.
- Goldsmith, John A. 1976. Autosegmental Phonology. PhD. dissertation, MIT.

- Prince, Alan & Paul Smolensky. 2004[1993]. *Optimality Theory: Constraint Interaction in Generative Grammar*. Malden, MA, and Oxford, UK: Blackwell
- Suárez, Jorge A. 1983. *La Lengua Tlapaneca de Malinaltepec*. México, D. F.: Universidad Nacional Autónoma de México.
- Uchihara, Hiroto & Gregorio Tiburcio Cano. 2021. A phonological account of Tlapanec (Mè'phàà) tonal alternations. *Journal of Linguistics* 56.4: 807-863